ポンプ場・処理場施設(建築・建築設備)編

| 一八旦八 | 11157 11 | 十標準歩掛表の一部改定 第2巻 7 | | 工種名 | 建築・建築設備 | |
|------|------------|---|--|--|---|---|
| 頁 改定 | 三趣旨 | 現 | 行 | | 改 | 定 |
| 算基 | 基準の Eによ | 準」の定めによる。 (1) 共通仮設費 共通仮設費 共通仮設費は、各工事種目に共通の仮設に要する (2) 現場管理費 現場管理費は、工事施工に当たり、工事現場を管理 (3) 一般管理費等 | 本的な算定については、「下水道用建築・建築設備工事共通費積3 費用とする。 理運営するために必要な費用で、共通仮設費以外の費用とする。 運営に必要な費用で、一般管理費と付加利益からなる。 | 準」の定めによる(1) 共通仮記共通仮記共通仮記現場管理現場管理(3) 一般管理 | 5。 投費 投費は,各工事種目に共通の仮設に要する費月 担費 担費は,工事施工に当たり,工事現場を管理選 担費等 | 的な算定については、「下水道用建築・建築設備工事共通費積算用とする。 理営するために必要な費用で、共通仮設費以外の費用とする。 営に必要な費用で、一般管理費と付加利益等からなる。 |

| 卜水道用設計 ——— | 十標準歩掛表の一部改定 第2巻 | ボンフ場・処埋場編 | 工種名 | 建築・建築設備 | |
|---------------|---|--|------------------------------|----------------------|--|
| 頁 改定趣旨 | 現 | 行 | | 改 | 定 |
| 記 | (設計変更における工事費) 第7 設計変更における工事費は、当該変更対象の直 当初請負代金額から消費税等相当額を減じた額を当る 額を加えて得た額とする。 | 接工事費を積算し,これに当該変更に係わる共通 工事費内訳書記載の工事価格で除した比率を乗じ | , さらに消費税等相当 <u>原則として</u> 当初詞 | こおける工事費は、当該変更対象の直接工事 | 費を積算し,これに当該変更に係わる共通費を加えて得た額に, 当初工事費内訳書記載の工事価格で除した比率を乗じ,さらに: |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

| で計上する場 算定する場 目 理 費 | 場合の直接工事費には、原則として本設のための電力、水道等の各種負担金は含まないもの表-2 現場管理費 内 内 現場雇用労働者(各現場で元請企業が臨時に直接雇用する労働者)及び現場労働者(再下請を含む下契約に基づき現場労働に従事する労働者)の労務管理に要する費用 ・ 慰安、娯楽及び厚生に要する費用 ・ 慰安、娯楽及び厚生に要する費用 ・ 独工事費に含まれない作業用具及び作業用被服等の費用 ・ 資金以外の食事、適勤費等に要する費用 ・ 安全、衛生に要する費用及び研修訓練等に要する費用 ・ 労災保険法による給付以外に災害時に事業主が負担する費用 |
|------------------------------------|---|
| 反設費」, で計上すぶ 算定する場 目 理費 | る。 場合の直接工事費には、原則として本設のための電力、水道等の各種負担金は含まないもの表-2 現場管理費 内 環場雇用労働者(各現場で元請企業が臨時に直接雇用する労働者)及び現場労働者(再下請を含む下契約に基づき現場労働に従事する労働者)の労務管理に要する費用・ 慰安、娯楽及び解性に要する費用・ 慰安、娯楽及び解性に要する費用・ ・ 第集とび解散に要する費用・ ・ 領金以外の食事、通勤費等に要する費用・ 安全、衛生に要する費用及び研修訓練等に要する費用・ 安全、衛生に要する費用及び研修訓練等に要する費用・ 労災保険法による給付以外に災害時に事業主が負担する費用 |
| 理 費 | 内 容 現場雇用労働者(各現場で元請企業が臨時に直接雇用する労働者)及び現場労働者(再下請を含む下契約に基づき現場労働に従事する労働者)の労務管理に要する費用 ・ 募集及び解散に要する費用 ・ 慰妊・ 娯楽及び厚生に要する費用 ・ 純工事費に含まれない作業用具及び作業用被服等の費用 ・ 賃金以外の食事、 通勤費等に要する費用 ・ 安全、衛生に要する費用及び研修訓練等に要する費用 ・ 労災保険法による給付以外に災害時に事業主が負担する費用 |
| 理 費 | 現場雇用労働者(各現場で元請企業が臨時に直接雇用する労働者)及び現場労働者(再下請を含む下契約に基づき現場労働に従事する労働者)の労務管理に要する費用 ・ 聚集及び解散に要する費用 ・ 慰安、娯楽及び厚生に要する費用 ・ 純工事費に含まれない作業用具及び作業用被服等の費用 ・ 賃金以外の食事、通勤費等に要する費用 ・ 安全、衛生に要する費用及び研修訓練等に要する費用 ・ 労災保険法による給付以外に災害時に事業主が負担する費用 |
| | 契約に基づき現場労働に従事する労働者)の労務管理に要する費用 ・ 募集及び解散に要する費用 ・ 慰安,娯楽及び厚生に要する費用 ・ 越工事費に含まれない作業用具及び作業用被服等の費用 ・ 賃金以外の食事,通勤費等に要する費用 ・ 安全、衛生に要する費用及び研修訓練等に要する費用 ・ 労災保険法による給付以外に災害時に事業主が負担する費用 |
| 公 課 | |
| | - 工事契約書等の印紙代,申請書・謄抄本登記等の証紙代,固定資産税・自動車税等の租税公課,諸官 手続き費用 |
| 料 | 火災保険、工事保険、自動車保険、組立保険、賠償責任保険及び法定外の労災保険の保険料 |
| 料手当 | 現場従業員(元請企業の社員) <u>及び現場雇用労働者</u> の給与,諸手当(交通費,住宅手当等)及び賞与 |
| 作 成 費 | 施工図等を外注した場合の費用 |
| 金 | 現場従業員に対する退職金給付引当金繰入額及び現場雇用労働者の退職金 |
| 利 費 | 現場従業員、現場雇用労働者及び現場労働者に関する次の費用 ・現場従業員及び現場雇用労働者に関する労災保険料、雇用保険料、健康保険料及び厚生年金保険料業主負担額 ・現場労働者に関する労災保険料の事業主負担額 ・建設業退職金共済制度に基づく証紙購入代金 |
| 生 費 | 現場従業員に対する慰安、娯楽、厚生、貸与被服、健康診断、医療、慶弔見舞等に要する費用 |
| 品 費 | 事務用消耗品費,〇A機器等の事務用備品費,新聞・図書・雑誌等の購入費,工事写真代等の費用 |
| 通 費 | 通信費、旅費及び交通費 |
| | 工事施工に伴って通常発生する騒音,振動,濁水,工事用車両の通行等に対して,近隣の第三者に支れる補償費。ただし,電波障害等に関する補償費を除く。 |
| 他 | 会議費,式典費,工事実績の登録等に要する費用,その他上記のいずれの項目にも属さない費用 |
| | 生 費品 費 |

下水道用設計標準歩掛表の一部改定 第2巻 ポンプ場・処理場編

 頁 改定趣旨
 現
 行
 改
 定

182 役員報酬 の内容の 修正及び 付加利益 等の表の 追加

表-3 一般管理費 内 員 報 酬 取締役及び監査役に要する報酬 従業員給料手当本店及び支店の従業員に対する給与、諸手当及び賞与(賞与引当金繰入額を含む) 金本店及び支店の役員及び従業員に対する退職金(退職給与引当金繰入額及び退職年金掛金を含む。) 法 定 福 利 費 本店及び支店の従業員に関する労災保険料,雇用保険料,健康保険料及び厚生年金保険料の事業主 福 利 厚 生 費 本店及び支店の従業員に対する慰安、娯楽、貸与被服、医療、慶弔見舞等の福利厚生等に要する費 維持修繕費建物、機械、装置等の修繕維持費、倉庫物品の管理費等 事務用品費事務用消耗品費,固定資産に計上しない事務用備品,新聞参考図書等の購入費 通信交通費 通信費,旅費及び交通費 動 力 用 水 光 熱 費 電力, 水道, ガス等の費用 調 査 研 究 費 技術研究, 開発等の費用 広告 宣伝費 広告,公告又は宣伝に要する費用 交 費 得意先、来客等の接待、慶弔見舞等に要する費用 金 社会福祉団体等に対する寄付 代 家 賃 事務所,寮,社宅等の借地借家料 減 価 償 却 費 建物, 車両, 機械装置, 事務用備品等の減価償却費 試験研究償却費 新製品又は新技術の研究のための特別に支出した費用の償却額 開発 償却 費 新技術又は新経営組織の採用、資源の開発並びに市場の開拓のため特別に支出した費用の償却額 公 課 不動産取得税, 固定資産税等の租税及び道路占有料その他の公課 料 火災保険その他の損害保険料 契 約 保 証 費 契約の保証に必要な費用 費 社内打合せの費用、諸団体会費等の上記のいずれの項目にも属さない費用

- 2. 共通仮設費の算定
- (1) 共通仮設費は、**表-1**の内容について、費用を積み上げにより算定するか、過去の実績等に基づく直接工事費に対する 比率(以下「共通仮設費率」という。)により算定する。

ただし、共通仮設費率を算定する場合の直接工事費には、発生材処分費を含まないものとする。

(2) 共通仮設費率は, **別表-1**から**別表-6**によるものとする。

なお、共通仮設費率に含まれない内容については、必要に応じ別途積み上げにより算定して加算する。

(3) 当該共通仮設費率に含まれる内容は表-4及び表-5とする。

表-4 建築工事の共通仮設費率に含む内容

| ; | 頁 | | 目 | | 内 | 容 |
|---|-----|---|-----|---|---|----------------------|
| 準 | | 備 | | 費 | 敷地整理 (新営の場合), その他の準備に要する費用 | |
| 仮 | 設 | 建 | 物 | 費 | 監理事務所 (敷地内), 現場事務所 (敷地内), 倉庫, 設計図書によるイメージアップ費用を除く。 | 下小屋、作業員施設等に要する費用。ただし |
| 工 | 事 | 施 | 設 | 費 | 場内通信設備等の工事用施設に要する費用。ただし, | 設計図書によるイメージアップ費用を除く。 |
| 環 | 境 | 安 | 全 | 費 | 安全標識、消火設備等の施設の設置、隣接物等の養生 | E及び補償復旧に要する費用 |
| 動 | 力 用 | 水 | 光 熱 | 費 | 工事用電気設備及び工事用給排水設備に要する費用並 | びに工事用電気・水道料金等 |

| | | | | | 表一3 一般管理費 |
|---|-----|---|-----|----------|---|
| 3 | 頁 | | 目 | | 内 |
| 役 | 員 | 報 | 酬 | <u>等</u> | 取締役及び監査役に要する報酬 <u>及び賞与(損金算入分)</u> |
| 従 | 業 員 | 給 | 料 手 | 当 | 本店及び支店の従業員に対する給与、諸手当及び賞与(賞与引当金繰入額を含む) |
| 退 | | 職 | | 金 | 本店及び支店の役員及び従業員に対する退職金(退職給与引当金繰入額及び退職年金掛金を含む。) |
| 法 | 定 | 福 | 利 | 費 | 本店及び支店の従業員に関する労災保険料,雇用保険料,健康保険料及び厚生年金保険料の事業主 負担額 |
| 福 | 利 | 厚 | 生 | 費 | 本店及び支店の従業員に対する慰安、娯楽、貸与被服、医療、慶弔見舞等の福利厚生等に要する費 用 |
| 維 | 持 | 修 | 繕 | 費 | 建物、機械、装置等の修繕維持費、倉庫物品の管理費等 |
| 事 | 務 | 用 | 品 | 費 | 事務用消耗品費,固定資産に計上しない事務用備品,新聞参考図書等の購入費 |
| 通 | 信 | 交 | 通 | 費 | 通信費、旅費及び交通費 |
| 動 | 力 用 | 水 | 光 熱 | 費 | 電力、水道、ガス等の費用 |
| 調 | 査 | 研 | 究 | 費 | 技術研究, 開発等の費用 |
| 広 | 告 | 宣 | 伝 | 費 | 広告、公告又は宣伝に要する費用 |
| 交 | | 際 | | 費 | 得意先,来客等の接待,慶弔見舞等に要する費用 |
| 寄 | | 付 | | 金 | 社会福祉団体等に対する寄付 |
| 地 | 代 | | 家 | 賃 | 事務所、寮、社宅等の借地借家料 |
| 減 | 価 | 償 | 却 | 費 | 建物、車両、機械装置、事務用備品等の減価償却費 |
| 試 | 験 研 | 究 | 償 却 | 費 | 新製品又は新技術の研究のための特別に支出した費用の償却額 |
| 開 | 発 | 償 | 却 | 費 | 新技術又は新経営組織の採用、資源の開発並びに市場の開拓のため特別に支出した費用の償却額 |
| 租 | 税 | | 公 | 課 | 不動産取得税,固定資産税等の租税及び道路占有料その他の公課 |
| 保 | | 険 | | 料 | 火災保険その他の損害保険料 |
| 契 | 約 | 保 | 証 | 費 | 契約の保証に必要な費用 |
| 雑 | | | | 費 | 社内打合せの費用,諸団体会費等の上記のいずれの項目にも属さない費用 |

表一4 付加利益等

法人税、都道府県民税、市町村民税等(表-3の租税公課に含むものを除く)

株主配当金

<u>役員賞与(</u>損金算入分を除く)

内部留保金

支払利息及び割引料、支払保証料その他の営業外費用

2. 共通仮設費の算定

工種名

建築・建築設備

(1) 共通仮設費は、表-1の内容について、費用を積み上げにより算定するか、過去の実績等に基づく直接工事費に対する比率(以下「共通仮設費率」という。)により算定する。

ただし、共通仮設費率を算定する場合の直接工事費には、発生材処分費を含まないものとする。

(2) 共通仮設費率は、**別表-1**から**別表-6**によるものとする。

なお、共通仮設費率に含まれない内容については、必要に応じ別途積み上げにより算定して加算する。

(3) 当該共通仮設費率に含まれる内容は表-5及び表-6とする。

表-5 建築工事の共通仮設費率に含む内容

| : | 項 | | 目 | | 内 | 容 |
|---|-----|---|-----|---|---|----------------------|
| 準 | | 備 | | 費 | 敷地整理 (新営の場合), その他の準備に要する費用 | |
| 仮 | 設 | 建 | 物 | 費 | 監理事務所 (敷地内), 現場事務所 (敷地内), 倉庫, 設計図書によるイメージアップ費用を除く。 | 下小屋、作業員施設等に要する費用。ただし |
| 工 | 事 | 施 | 設 | 費 | 場内通信設備等の工事用施設に要する費用。ただし、 | 設計図書によるイメージアップ費用を除く。 |
| 環 | 境 | 安 | 全 | 費 | 安全標識、消火設備等の施設の設置、隣接物等の養生 | 及び補償復旧に要する費用 |
| 動 | 力 用 | 水 | 光 熱 | 費 | 工事用電気設備及び工事用給排水設備に要する費用並 | びに工事用電気・水道料金等 |

| 表-5 建築機械設備工事及び建築電気設備工事の共通仮設費率に含む内容 日 内 容 | 表 - 6 建築機械設備工事及び建築電気設備工事の共通仮設費率に含む内容 項 月 内 容 準 備 費 その他の準備に要する費用 |
|---|---|
| # 費 その他の準備に要する費用 車 物 費 現場事務所 (敷地内), 倉庫, 下小屋, 作業員施設等に要する費用。ただし, 設計図書によるイメ | |
| 書 物 費 現場事務所 (敷地内), 倉庫, 下小屋, 作業員施設等に要する費用。ただし, 設計図書によるイメ | 準 備 費 その他の準備に要する費用 |
| | |
| | 仮 設 建 物 費 現場事務所(敷地内), 倉庫, 下小屋, 作業員施設等に要する費用。ただし, 設計図書によるイージアップ費用を除く。 |
| を 設 費 場内通信設備等の工事用施設に要する費用。ただし、設計図書によるイメージアップ費用を除く。 | エ 事 施 設 費 場内通信設備等の工事用施設に要する費用。ただし、設計図書によるイメージアップ費用を除く |
| 安全 費 安全標識、消火設備等の施設の設置に要する費用 | 環 境 安 全 費 安全標識、消火設備等の施設の設置に要する費用 |
| k 光 熱 費 工事用電気設備及び工事用給排水設備に要する費用並びに工事用電気・水道料金等。 | 動 力 用 水 光 熱 費 工事用電気設備及び工事用給排水設備に要する費用並びに工事用電気・水道料金等。 |
| 里清掃費屋外及び敷地周辺の跡片付け及びこれに伴う屋外発生材処分等に要する費用 | 屋 外 整 理 清 掃 費 屋外及び敷地周辺の跡片付け及びこれに伴う屋外発生材処分等に要する費用 |
| 場 具 費 測量機器及び雑機械器具に要する費用 | 機 械 器 具 費 測量機器及び雑機械器具に要する費用 |
| り 他 上記のいずれの項目にも属さないもののうち軽微なものの費用 | そ の 他 上記のいずれの項目にも属さないもののうち軽微なものの費用 |
| 長し工事, 造園工事, 舗装工事 農設備工事 と設備工事 はおいるでは、1000 では、1000 | 特殊な室内装備品 (家具、書架及び実験台の類) 工事 取り壊し工事, 造園工事, 舗装工事 昇降機設備工事 実験機器 (ドラフトチャンバー類) 分析ガス設備工事 さく井設備工事 水質測定試験機器 |
| | 電波障害防除設備工事 |
| | |
| | |
| 理器 プロー 重書 一学 寒機機が 中順 | 理 清 掃 費 屋外及び敷地周辺の跡片付け及びこれに伴う屋外発生材処分等に要する費用 器 具 費 測量機器及び雑機械器具に要する費用 |

| 下 | 水道用設計 | +標準歩掛表の一部改定 第2巻 ポンプ場・処理場編 | 工 種 名 建築・建築設備 |
|---|-------|---------------------------|---------------|
| 頁 | | 現 行 | 改定 |
| 頁 | 改定趣旨 | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

| 定趣旨 | | 現 | 行 | | | 改 | 定 | |
|------------|---------|----------------------|-------------------------|---------------------|---------|-----------------------|------------------------------------|---------------------|
| | | 別表-1: | 3 一般管理費等率 建築工事 | | | 別表-13 | 一般管理費等率 建築工事 | |
| 般管理 等率算 | 工事原価 | 5 百万円以下 | 5百万円を超え30億円以下 | 30億円を超える | 工事原価 | 5 百万円以下 | 5百万円を超え30億円以下 | 30億円を超える |
| 式の見 | 一般管理費等率 | 11.26% | 一般管理費等率算定式により算定 された率 | <u>8.41</u> % | 一般管理費等率 | <u>17. 24</u> % | 一般管理費等率算定式により算定 された率 | <u>8. 43</u> % |
| | Ср: | 一般管理費等率(工事原価(千円) | %) 四捨五入して2位止めとする。 | | Ср: | 一般管理費等率(9 工事原価(千円) | 6) 捨五入して2位止めとする。 | |
| | | 即丰_ 1 4 | 一般管理費等率 建築機械設備工 | ± | | 则丰_ 1.4 | 一般管理費等率 建築機械設備工 | ± |
| | 工事原価 | 3百万円以下 | 3百万円を超え20億円以下 | ● 2 0 億円を超える | 工事原価 | 3百万円以下 | - 放官理負寄学 建業機械設備工・ 3百万円を超え20億円以下 | ▶ 2 0 億円を超える |
| | 一般管理費等率 | 11.20% | 一般管理費等率算定式により算定 された率 | <u>7. 52</u> % | 一般管理費等率 | <u>16. 68</u> % | 一般管理費等率算定式により算定 された率 | <u>8. 07</u> % |
| | Ср: | 一般管理費等率(工事原価(千円) | %) 別格五入して2位止めとする。 | | Ср: | 一般管理費等率(9 工事原価(千円) | 6) 捨五入して2位止めとする。 | |
| | | 別表 - 15 - | - 般管理費等率 建築電気設備工事 | | | 別表 1.5 | ·般管理費等率 建築電気設備工事 | : |
| | 工事原価 | 3百万円以下 | 3百万円を超え20億円以下 | 20億円を超える | 工事原価 | 3百万円以下 | 3百万円を超え20億円以下 | 20億円を超える |
| | 一般管理費等率 | 11.80% | 一般管理費等率算定式により算定 された率 | <u>7. 35</u> % | 一般管理費等率 | <u>17. 49</u> % | 一般管理費等率算定式により算定 された率 | <u>8.06</u> % |
| | Ср: | 一般管理費等率(工事原価(千円) | %) 四捨五入して2位止めとする。 | | Ср: | 一般管理費等率(9 工事原価(千円) | %) 捨五入して2位止めとする。 | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | |

| 下水道用設計 | 十標準歩掛表の一部改定 第 | 2巻 ポンプ場・ダ | 0.理場編 | 工種名 | 建築・建築設備 | |
|---------------------------------|--|--|-----------------------------------|-----|--|---|
| 頁 改定趣旨 | 現 | | 行 | | 改 | 定 |
| 190 一般管理 費等の算 定内容の 明確化 | 5. 一般管理費等の算定 (1) 一般管理費等を算定する場合は、次式 一般管理費等を (工事原価×一般管理 なお、契約保証費については、工事 加算する。ただし、設計変更において | 理費等率)+積み上げによる- <mark>原価に</mark> 本解説 別表-1 による <mark></mark> | 一般管理費等 契約保証費率を乗じ算出した金額を一般管理費等に | 一般管 | 胆費等を算定する場合は,次式により計算 許理費等=(工事原価×一般管理費等率) | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

| 正及び項 |
|--|
| 表名の修正及び項目の追加 (本証の方法1:発注者が金銭的保証を必要とする場合 (工事請負契約書第4条を採用する場合) 0.04 (本証の方法2:上記以外の場合 補正値(%) (工事請負契約書第4条を採用する場合) 0.04 (本証の方法2:上記以外の場合 補正しない 注)契約保証のうち、保証の方法2の具体例は以下のとおり。 (① 子真決算及び会計令第100条の2第1項第1号の規定により、工事請負契約書の作成を省略できる工事請負契約である場合 ② 特定建設工事共同企業体により競争を行わせる場合 (② 特定建設工事共同企業体により競争を行わせる場合 (② 特定建設工事共同企業体により競争を行わせる場合 (② 特定建設工事共同企業体により対象を省略できる 負契約である場合 (② 特定建設工事共同企業体により対象を省略できる 負契約である場合 (② 特定建設工事共同企業体により対象を行わせる場合 (② 特定建設工事共同企業体により対象を行わせる場合 (② 特定建設工事共同企業体により対象を省略できる 負契約である場合 (② 特定建設工事共同企業体により対象を省略できる 負契約である場合 (② 特定建設工事共同企業体により対象を省略できる 負契約である場合 (② 特定建設工事共同企業体により対象を省略できる 負契約である場合 (② 特定建設工事共同企業体により対象を省略できる (④ 大事法2 (○ 大事2 (○ 大事法2 (○ 大事法2 (|
| 日の追加 (工事請負契約書第4条を採用する場合) 0.04 (保証の方法2:上記以外の場合 植正しない 注)契約保証の方法2の具体例は以下のとおり。 ① 予算決算及び会計令第100条の2第1項第1号の規定により、工事請負契約書の作成を省略できる工事請負契約である場合 ② 特定建設工事共同企業体により競争を行わせる場合 (工事請負契約書の4条を採用する場合) 0.04 (保証の方法2:発注者が役務的保証を必要とする場合 0.09 (保証の方法3:上記以外の場合 補正しない ② 特定建設工事共同企業体により競争を行わせる場合 ② 特定建設工事共同企業体により競争を行わせる場合 (工事請負契約書の作成を省略できる工事請負契約書の作成を省略できる工事請負契約書の作成を省略できる工事請負契約書の作成を省略できる 負契約である場合 |
| 注)契約保証のうち、保証の方法 <u>2</u> の具体例は以下のとおり。 ① 予算決算及び会計令第100条の2第1項第1号の規定により、工事請負契約書の作成を省略できる工事請 負契約である場合 ② 特定建設工事共同企業体により競争を行わせる場合 ② 特定建設工事共同企業体により競争を行わせる場合 |
| ① 予算決算及び会計令第100条の2第1項第1号の規定により、工事請負契約書の作成を省略できる工事請 負契約である場合 ② 特定建設工事共同企業体により競争を行わせる場合 ② 特定建設工事共同企業体により競争を行わせる場合 ② 特定建設工事共同企業体により競争を行わせる場合 |
| 負契約である場合 ② 特定建設工事共同企業体により競争を行わせる場合 ② 特定建設工事共同企業体により競争を行わせる場合 ② 特定建設工事共同企業体により競争を行わせる場合 |
| |

| 下 | 水道用設計 | 票準歩掛表の一部改定 第2巻 | ポンプ場・処理場編 | 工種名 | 建築・建築設備 | |
|-----|-------|---|--|--|---|--|
| 頁 | 改定趣旨 | 現 | 行 | | 改 | 定 |
| 213 | 面係方直 | (3) RC造一般建物の場合 イ 存置日数は、構造関係、仕上げ関係並びに 出し合計を、少数点以下1位を切り上げ整数 存置日数=面積補正対象日数×面積補正係 ロ 地下階及び地上階の面積補正係数は次式に 面積補正係数=建築面積/750m² ハ 塔屋階の面積補正係数は次にるものとし、 面積補正係数=対象面積100 ㎡未満:1.00 ニ 塔屋階は仕上げ関係の存置日数を計上しな | 《〔機械器具リース料 (円/日)〕 ,建物の種類・形状、作業条件等により検討して定めるものとする。 地下階、地上階及び塔屋に区分し表-1の標準存置日数から次式により第 止めとする。 数+固定日数 より算出して、少数点以下3位を四捨五入し少数点以下2位止めとする。 対象面積は塔屋1階の床面積とする。 、100~300 ㎡未満:1.33、300~500 ㎡未満:1.70 いものとする。 げ関係は4階建相当の高さの場合は、別途考慮する。 | 場重重 (2) 揚重重 (3) RC 没 (3) RC 没 (4) 分 (5) 分 (5) 分 (7) | 機械器具に要する費用は次式により算出する。 機械器具費= [存置日数(計画数量)] × [機構 機械器具(荷揚/7機械)の機種,規格は,建物 這一般建物の場合 置日数は、構造関係、仕上げ関係並びに地下階 し合計を、少数点以下1位を切り上げ整数止め 置日数=面積補正対象日数×面積補正係数+固 下階及び地上階の面積補正係数は次式により算 建築面積は基準階面積とし、500 ㎡未満の場合 積工係数=建築面積/750㎡ 置階の面積補正係数は次式により算 種階の面積補正係数日とし、対象面 積補正係数=対象面積100 ㎡未満:1.00、1000 屋階は仕上げ関係の存置日数を計上しないもの | の種類・形状、作業条件等により検討して定めるものとする。 、地上階及び塔屋に区分し表-1の標準存置日数から次式により のとする。 同定日数 は出して、少数点以下3位を四捨五入し少数点以下2位止めとす は500 ㎡とする。 (清積は塔屋1階の床面積とする。 ~300 ㎡未満:1.33、300~500 ㎡未満:1.70 いとする。 は4階建相当の高さの場合は、別途考慮する。 |